



芸術鑑賞会を行いました

11月2日(火)に、^{そつさく}想咲太鼓打ちとして活躍されている溝端健太さんを本校にお招きして、芸術鑑賞会を行いました。

子どもたちは、一打一打和太鼓の豊かな響きを体感し、真剣に太鼓の響きに耳を傾けていました。

オープニングの後、まず組太鼓の創作『武者』を披露していただきました。溝端さんからは、「太鼓は不思議な楽器です。頭の中でイメージして聴くと、



雷の音になったり、風の音になったりと、イメージした音になって聴こえてきます。」と教えてくださいました。子どもたちは、組太鼓の創作『武者』を、侍をイメージしながら聴きました。

次に、太鼓について説明をしていただきました。

太鼓の打面は牛の革でできています。太鼓の胴は木でできています。牛の革も木も、命が宿っているものです。呼吸をしています。乾燥した日は乾いた音、湿気た日は曇った音がでます。また太鼓は打つ場所(真ん中やはし)によって音が違います。

ここで、理科の実験を試みましょう。



『どんな音になるでしょう』

子どもたちの代表が、大・中・小のうちわ太鼓を使って、音比べをしました。全校生で聴き比べをしました。

太鼓が大きいほど音も大きいです。音程は、太鼓が小さいほど音程は高くなります。反対に、大きい太鼓ほど、音程は低くなります。



『音はどこまで届くでしょうか』

「ある人が、モンゴルの草原で、大きな太鼓をたたきました。見渡す限り原っぱです。周りに壁や家（屋根）はありません。さて、大きな太鼓の音はどこまで届くでしょうか。」

溝端さんからのクイズです。50m、100m、200m、300m、500m、1km、地球の半分…と、子どもたちは考えました。答えは、5kmでした。



昔の人は、太鼓の音を使って連絡をしていました。戦の時に敵が攻めてきたことを知らせたり、時間を知らせたりしていました。また、天気をお祈りするときにも太鼓を使いました。



溝端さんには、和太鼓と鉦を使った『お祭り』や、平荘小学校の校歌を太鼓で表現するという演奏を披露していただきました。平荘小学校の校歌の歌詞を暗記して演奏されたことに、大変驚きました。



溝端さんのばちさばきに、子どもたちは圧倒されていました。

最後は、子どもたちの代表と溝端さんと一緒に太鼓を演奏したり、全校生が手拍子で参加したりと、楽しいひと時を過ごしました。



コロナ禍ではありましたが、感染対策を講じながら、とても有意義な1時間を過ごすことができました。